

東京藝術大学基金

活動報告書

2024

学長挨拶

平素より東京藝術大学への温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

本学は、前身である東京美術学校、東京音楽学校の創立以来138年間、我が国の芸術教育研究の中枢として、日本文化の伝統とその遺産を守りつつ、世界の芸術思想及び技術とも融合し、幾多の優れた芸術家、教育者、研究者を輩出してきました。

現代社会において、一人ひとりが健康で文化的な人生を全うできる社会の実現が求められています。本学では、アート・福祉・医療・テクノロジー・教育の融合を図り、「誰もが“自分らしく”いられる共生社会の実現」を目指しています。創立以来の教育研究活動に加え、アートの持つ力によって心豊かで活力ある社会の形成に寄与することが、大学としての重要な使命と捉え、芸術の力で、すべての人々と領域をつなぐ—その挑戦を、皆様と共に進めてまいりたいと願っております。

さらに、先端技術や情報通信環境が高度化したデジタル社会における新しい芸術領域のゲーム分野に係る教育研究を開拓するため、2026年4月に大学院映像研究科修士課程に「ゲーム・インタラクティブアート専攻」を開設します。ゲームを活用する研究や実践が医療や教育、地域振興などの分野で広がりつつあるため、より良い社会を実現するためのツールとしての役割も果たしてまいります。

一方、2004年の国立大学法人化以降、20年間で国立大学運営費交付金全体は約13%削減されました。国の財政がさらに逼迫すると、国立大学運営費交付金は今後も削減されることが予想されています。本学もこの厳しい財政状況において、学生たちが受ける芸術教育をより良く充実させるためには教育研究環境の継続的な整備と新しい挑戦が必要であり、国からの交付金だけでは頼らない、自立した財政基盤の強化が重要と考えております。そのため、ファンドレイジング体制を強化するために2024年10月には「東京藝術大学基金室」を新設し、大学全体として寄附の運営体制を整えました。また、2025年3月には海外における活動基盤として、米国の非営利法人の Myriad USA とフィスカル・スポンサーシップ契約を締結し、現地での寄附募集を開始しております。さらに、2025年4月からは、2037年に迎える創立150周年に向けて、これまでの歴史を振り返りつつ未来を見据えるため、「伝統伝承・150周年担当」の副学長を新たに任命いたしました。

東京藝術大学基金は、本学の長期的・安定的な財政基盤として、教育研究活動や社会連携活動の一層の発展と、我が国における文化芸術の振興等に資することを目的として、2012年10月に設置いたしました。お陰様で、多くの皆さまの温かいご支援を賜り2025年3月末の累計総額は25億円に達しました。このうち、東京藝術大学基金で最も重要である「未来寄附金」は運用原資として積み立て、その運用益を教育研究活動や学生への支援、施設設備の整備等に活用をさせていただきます。皆さまからのご寄附が永続的に日本に育まれた文化芸術の伝統の継承、現在の学生、そして未来の学生の芸術教育へのご支援となります。いただいたお一人おひとりのご厚意は、新しい挑戦ができる大きな後押しとして大学運営の原動力となっております。学生や教職員、そして未来の芸術教育へと確実につなげていけるよう、大学として一丸となって取り組んでまいります。

芸術の可能性を信じる、私たちの夢は尽きることがありません。

本学では引き続き、「芸術とは何か」という問いを胸に、思考・創造・演奏・発表など、芸術教育研究のさらなる充実を目指してまいります。そして、学生や教員が芸術を通じて自己の研鑽に励むと同時に、社会の皆様とも、芸術による気づきや感動を共有できる場を広げていきたいと考えております。

東京藝術大学基金へご支援をいただいた皆さまに、改めまして深く感謝申し上げますとともに、100年先も時代とともに変化しつつ、培ってきた伝統を学ぶ環境を大切にした芸術教育が継続できるよう、引き続き、東京藝術大学への変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

東京藝術大学長 日比野 克彦

Hiyino.



寄附実績

▶東京藝術大学基金へのご寄附

2024年度 東京藝術大学基金への寄附総額

皆様の温かいご支援により、2024年度の寄附総額は**191,938,497**円に達しました。

東京藝術大学基金に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様からのご寄附につきましては、運用資産として活用させていただくとともに、寄附目的に沿って教育研究活動への支援等に活用させていただいております。

東京藝術大学基金の累計総額は25億円に到達

東京藝術大学基金は、本学の財政基盤を長期的に支え、もって本学における教育研究活動、社会連携活動の充実、ひいては我が国における芸術文化の振興等に資するため、2012年10月に創設しました。

そして、2024年度末現在、その累計総額は**2,507,645,429**円に達しました。

皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

▶東京藝術大学寄附財産基金へのご寄附

2024年度において、グランドピアノ2台の寄贈を賜りました

東京藝術大学では、土地・建物の不動産や株式などの現物資産によるご寄附の受け入れも行っております。

2024年度期末の東京藝術大学寄附財産基金の状況につきましては次の通りです。

特例寄附資産等の区分	金額（円）
土地	461,400,000
家屋	37,343,680
設備等	7,453,344
合計	506,197,024

東京藝術大学への現物資産によるご寄附につきましては、「みなし譲渡所得税」の非課税措置を受けることが可能です。

詳しくは、東京藝術大学基金室へお問合せください。

主な活動報告

▶国際交流拠点整備事業

「共に藝える」空間づくり－TAKI PLAZAの現在

2022年11月に竣工した国際交流棟（Hisao & Hiroko TAKI PLAZA）は、留学生と共に学び、共に交流できる国際交流の拠点として整備され、施設各所には「共に藝（う）える」をコンセプトに、留学生（卒業生）の制作した陶板による「留学生交流パブリックアート」、キャンパス内の植物を材料とした和紙や倒木した樹木を活用した「地産地消パブリックアート」、外壁面を様々な作品の実験の場として活用する「変化し続けるパブリックアート」の3つのパブリックアートが設置されています。

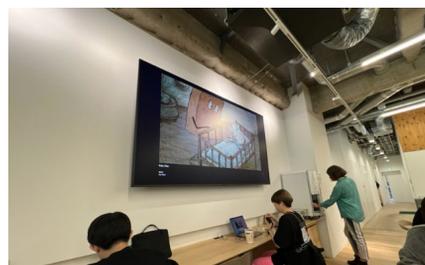
2024年度は上記パブリックアートのうち「変化し続けるパブリックアート」の一つ、「ARTS⇔LOVE⇔WALL－芸術は壁を超える－」（デザイン科）の作品において食堂内に映像を発信するために大型のモニターを設置いたしました。このモニターにはデザイン科の学生、留学生、卒業生、研究室等の映像が流れており、食事を楽しみながらもアートを感じられる空間になりました。

今後は建物外壁面に設置されている「変化し続けるパブリックアート」の更新を中心に、引き続き棟内のパブリックアート整備・管理を実施する予定です。

最後になりますが、国際交流拠点の整備にあたり、滝久雄様・裕子様ご夫妻より深い御理解と多額の御寄附を賜りましたことに対して深く感謝の意を表します。



国際交流棟（Hisao & Hiroko TAKI PLAZA）
（2025年7月現在）



食堂壁面に設置された大型モニター



フィンランドアート留学報告会の様子（国際交流棟3階）



2024後期留学生オリエンテーションの様子（国際交流棟2階）

主な活動報告

▶宗次徳二奨学基金

次世代の音楽界を担う才能を支援

宗次徳二様（カレーハウスCoCo壱番屋の創業者、NPO法人イエロー・エンジェル理事長）からの多大なるご寄附により、『宗次徳二特待奨学生制度』が創設され、音楽学部（器楽科ピアノ専攻、弦楽専攻、管打楽専攻 各1名）・大学院音楽研究科（声楽専攻またはオペラ専攻1名）の入試成績が優秀な学生に奨学金を給付しております。また、特待奨学生には、『宗次徳二海外留学支援奨学金』を給付し、留学や国際コンクールへの参加費用などへの支援を行っています。

さらに、世界的なオーケストラであるベルリン・フィルハーモニーが保有する「カラヤン・アカデミー」へ、特別選抜制度による2年間の若手演奏家派遣事業も実施しており、2022年度合格者1名に対しては、2023年度に引き続き支援を行っています。この事業についても宗次様からのご支援により実現しております。

【2024年度奨学金等給付実績】

- 宗次徳二特待奨学生 14名
 - ピアノ専攻 : 4名 管打楽専攻 : 4名
 - 弦楽専攻 : 4名 声楽専攻 : 2名
- 宗次徳二海外留学支援奨学金 14件
 - パリ国立高等音楽・舞踊学院への留学、
 - ローベルト・シューマン国際コンクールの出場 他
- ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー生への支援 1件

宗次徳二若手演奏家応援シリーズ
TOKYO GEIDAI × Muscatsugu Hall
東京藝術大学 宗次徳二特待奨学生コンサート 2024年度

ソプラノ 神原 愛可 専上1年次在学中
Aika Kambara, Soprano
ピアノ 堀内 龍星 3年次在学中
Ryusei Horiuchi, Piano
ヴァイオリン 水野 琴音 3年次在学中
Kotone Mizuno, Violin
サクソフォン 諏訪 直風 3年次在学中
Naokaze Suwa, Saxophone

2025年3月29日(日) 14:00開演 13:30開場(全自由席)
一般2,000円 学生1,000円

「東京藝術大学宗次徳二特待奨学生コンサート」にて、成果発表を行いました。



ドイツ、ツヴァイクハウにて
ローベルト・シューマン国際コンクールに出場

【宗次徳二海外留学支援奨学金受給者の声】

シューマンは僕が幼少の頃から特に思い入れのある、心の距離が近い作曲家であり、それ故シューマン国際コンクールに参加することは目標の一つでもありました。今回第二位を受賞できたことはとても嬉しく光栄です。現地での滞在最終日には、シューマンの生家(現博物館)を見学する時間ができ、クララシューマンの手をかたどった石膏や、同時代の作曲家ライネッケの演奏を記録したピアノロール等に接し、数々の発見と学びがありました。日本の大学に通いながら、昨年に引き続き国際コンクールに参加できる機会が得られたことは、とても貴重なことであり、ご支援をいただいた宗次徳二様に深く感謝しております。

(音楽学部器楽科ピアノ専攻 3年 [留学時])

▶SDGs推進基金

東京藝術大学 × みずほフィナンシャルグループ 「アートとジェンダー」共同研究プロジェクト

東京藝術大学（以下、「東京藝大」）と株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下、「みずほFG」）は、「経済だけでなく、アートの力で文化や社会・人びとの生活も豊かで彩ある未来」をともに目指して、2023年11月に包括連携協定を締結し、東京藝大とみずほFGとの連携事業として、「アートとジェンダー」をテーマにした様々なプロジェクトを、キュレーション教育研究センターにて展開しています。

2024年度は、①シンポジウム&リサーチプログラム「アートとジェンダー研究会」、②地域のこどもを対象にしたアートプロジェクト、③東京藝大 I LOVE YOU2024（公募B）の3つの事業を実施しました。具体的には、関連シンポジウムやアートプロジェクトを主催したほか、卒業生と修了生を対象に、ジェンダーやこどもを取り巻く課題に独自の発想で向き合う企画に対して総額300万円の助成を行いました。

キュレーション教育研究センターとみずほFGとの連携は2年目を迎え、相互のより活発なコミュニケーションにより、アートの現場に根差した支援が実現しています。本プロジェクトでは、引き続き、アートと金融・経済というそれぞれの専門性を活かしたシナジー効果を模索しながら、広く社会に還元していくような取り組みを実践してまいります。

【実施概要】

- ・実施期間：2024年4月～2025年3月
- ・開催場所：東京藝大上野キャンパス、千住キャンパス、足立区内の小学校



撮影：中川周

シンポジウム「アートとジェンダー：ケアの視点から」



撮影：中川周

こどもとつくるアートプロジェクト
「アートなお祭りパート3！～ハロウィン編～」



撮影：横山渚

東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト2024
みずほFGの社員と採択者の懇親会の様子

主な活動報告

▶ 藝大TURNプロジェクト

アートプロジェクト「TURN」

TURNは、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などによる違いや共通することと向き合い、一人ひとりのその人らしさを見出していくアートプロジェクトです。

2024年度は、キューバの現代アートの国際展「ハバナ・ビエンナーレ」に招聘され、公募して選出された学生／アーティストが現地へ渡航し、知的障害者支援施設や社会包摂プログラムとの交流を通してワークショップや展示を展開しました。環境・文化的背景の違いや、災害等の予期せぬファクターと向き合い、新たなプランを模索し続けながら展覧会をひらくことになりましたが、展覧会のオープニングには交流先の参加者やスタッフをはじめ、多くの方が集まり、新たな出会いと交流の時間になりました。

今後も、国内外の様々な領域の団体や施設との協働を広げ、活動を通して生まれた気付きを発信するとともに、アーティストの社会における新しい役割や表現を開拓していきます。

最後になりますが、本事業の推進にあたり、高橋直樹様・佳子様ご夫妻より深い御理解と多額の御寄附を賜りましたことに対して深く感謝の意を表します。

【TURN in HAVANA開催概要】

参加アーティスト×交流先：

クロエ・パレ×知的障害者支援施設ACPDI

渡邊元貴×ロベルト・フェルナンデス・レタマール図書館

(カサ・デ・ラス・アメリカス)

交流期間：2024年10月28日(月)～11月12日(火)

展示会場：Villena Room／UNEAC

※2025年1月から各交流先へ移動

展示期間：2024年11月14日(木)～2025年2月28日(金)

ワークショップ参加者：39名

参加・サポート：54名

その他協力者：17名



クロエ・パレとACPDIの交流とワークショップ



図書館での渡邊元貴の交流とワークショップ



展覧会オープニングとパフォーマンス



展示の様子

▶若手芸術家支援基金

東京藝大アートフェス 2024

「東京藝大アートフェス 2024」は、芸術家の発表の場を提供しアーティスト育成するとともに、アートと社会のかかわりについて共に考え、社会の様々な領域におけるアートの新たな価値や役割を創造することを目的として「とどける、つながる、ひろがる」をテーマに、A7 (ARTs7)※の各大学と連携し、オンライン上のアートフェスとして2024年11月27日(水)から2025年5月30日(金)まで開催いたしました。

本基金の活用により、WEBサイトを構築し、審査を通過した115作品の中から東京藝術大学長賞、みずほ賞、優秀賞、佳作の各賞を決定し、28名の受賞者には今後の活動支援のために賞金も授与しました。

また、2024年12月18日(水)には「東京藝大アートフェス2024」受賞作品発表オンラインイベントを開催しました。

東京藝術大学長賞、優秀賞、佳作各賞を発表すると共に、株式会社みずほフィナンシャルグループ米澤武史取締役兼執行役が出演し、みずほ賞の発表や日比野学長とのスペシャル対談も行いました。今後も、より一層のアーティスト育成に繋げるため、学生及び卒業修了生に積極的な作品募集を行う予定です。

※ A7 (ARTs7) とは

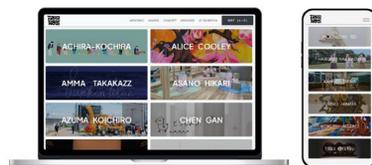
2023年5月のG7広島サミット2023の開催を機に、東京藝術大学が中心となり「A7」を提唱。国際的な教育フォーマットと研究ネットワークのための協力プラットフォーム“Shared Campus”のフル・パートナー校である世界の7つの芸術大学による共同声明「ARTsが社会的課題に取り組み世界平和への貢献を目指す。」を発表しました。

【A7 参加大学】

- チュールヒッ芸術大学 (チュールヒッ/スイス)
- ラサル芸術大学 (シンガポール)
- 香港浸會大學 (香港/中国)
- 東京藝術大学 (東京/日本)
- ロンドン芸術大学 (ロンドン/イギリス)
- 香港城市大學 クリエイティブメディア学院 (香港/中国)
- 國立臺北藝術大學 (台北/台湾)



東京藝大アートフェスロゴ



「東京藝大アートフェス2024」



「東京藝大アートフェス2024」
受賞作品発表オンラインイベント

主な活動報告

▶平成藝術賞（奨学金）

次世代の美術界を担う人材への支援

株式会社平成建設様より、継続的なご寄附のお申込をいただき、平成藝術賞が創設されました。次世代の美術界を担う芸術家及び研究者の人材育成を目的として、美術学部において特に優秀な者（当該選考年度の学部卒業見込者のうち卒業制作・論文が特に優秀な者）を各科（日本画、油画、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術表現、芸術学）から各1名選考し奨学金を給付させていただきますいております。

[平成藝術賞受賞者の声]

この度は、卒業制作に対して平成藝術賞という栄えある賞、また平成記念美術館ギャラリーでの展示の機会をいただき大変光栄に思います。ご指導いただいた先生方をはじめ、制作を支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。リサーチを出発点とする制作は、現実存在する問題に向き合うと同時に、それをどのように作品として立ち上げ、他者に寄り添う形で伝えるかを考える、試行錯誤の連続でした。一年をかけて深く向き合ったこの経験は、私にとってかけがえのない学びとなりました。今後も、社会の中にある問いや違和感に対し、表現を通じて応答していけるよう、思考と制作を重ねていきたいと思っております。

（美術学部先端芸術表現科・2024年度卒業）

今回、平成藝術賞という名誉ある賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。ご指導いただいた先生方、ここまで支えてくれた家族やクラスメイトに感謝すると共に、平成建設の皆さまに厚く御礼を申し上げます。私は自分の絵で賞をいただくというのは初めてでしたので、受賞した時は心から喜びました。賞をいただいたことで、改めて自分の絵を見てくれている人がいることを実感することができました。

締切の1週間前にはインフルエンザにかかったり、逆流性食道炎を患い初めての胃カメラを経験したりとなかなか思うようにいかないこともありましたが、最終的には納得のいく形で終わることができました。

現在は東京藝術大学の大学院に進学し、日本画制作に励んでおります。今後も学ぶ姿勢を持ち続け、新しい技法や題材を模索していきたいと思っています。

（美術学部絵画科日本画専攻・2024年度卒業）



受賞した作者と作品を展示紹介する「未来の大芸術家たち」展が開催されました。



「未来の大芸術家たち」展の様子

▶音楽学部・大学院音楽研究科

青山紫音室内楽学術研究基金

2024年度、室内楽講座では「室内楽講座コンサート2024」と「第51回藝大室内楽定期演奏会」を実施いたしました。

「室内楽講座コンサート」は、教員と学生による室内楽共演を特色としており、演奏家としての実践経験豊かな教員との、密度の高いアンサンブルの機会は、室内楽を専攻する学生の、貴重な研究成果披露の場となっております。2024年の演奏会では、ベートーヴェン作曲の「ピアノ三重奏曲第1番変ホ長調 op. 1-1」と、モーツァルト作曲の「弦楽五重奏曲第4番ト短調 KV516」が演奏されました。

また、2025年2月に行われた「第51回藝大室内楽定期演奏会」では、オーディションにより選出された計12組のグループが、2日間にわたり奏楽堂で1年間の室内楽レッスンの成果を披露いたしました。「青山紫音室内楽学術研究基金」は、室内楽演奏会活動等への助成を目的に創設されたものであり、ご寄附を活用させていただきましたことに心より感謝申し上げます。

東京藝術大学寄附財産基金

本学出身のピアニスト、恒川裕子氏が愛用されていたグランドピアノ2台を寄贈いただきました。

大型モデルのものは第1ホールにて授業や試演会などで演奏され、スタジオサイズのものにはピアノ科の江口研究室に設置され、普段のレッスンに活用されております。また、スタジオサイズのものには美しい装飾が施されており、研究室を訪れる方々からは一様に感嘆の声が聞かれます。

学生たちが由緒あるピアノに触れる機会を頂けたことは非常に意義深いものです。楽器本体が持つ音の特性から多くのインスピレーションを得て自分の演奏表現に役立てることができます。貴重な楽器のご寄贈に心より感謝申し上げます。良い楽器は年月とともに熟成してまいります。未長く本学の学生たちの教育に活用させていただきます。



「第51回藝大室内楽定期演奏会」の様子



主な活動報告

藝大フィルハーモニー管弦楽団2023アルゼンチン コロン劇場公演 1周年記念メモリアルBOOKを制作

本事業は、2023年12月6日、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスにある、世界三大劇場の一つとも称されるコロン劇場からの正式な招待と、駐アルゼンチン日本国大使のご支援を受けて実現しました。演奏会は、満員の聴衆からのスタンディング・オベーションと歓声を送られる熱狂の中で、大成功を収め、1年が経った今も、その感動の余韻が残っています。

帰国後、藝大フィルハーモニア管弦楽団は通常のオーケストラ活動に戻り、教育目的の演奏をはじめ、東京藝術大ならではの芸術的・社会的な使命を果たす演奏活動を継続してまいりました。近年では、そうした取り組みによる演奏の質に対し、特に高い評価をいただくことも増えております。

こうした中で実現した今回の海外ツアーの成功は、参加した演奏者や関係者にとって大きな励みとなり、今後の活動を発展させていく契機となりました。その貴重な経験を記録として残し、参加者の心に深く刻むため、このたび『藝大フィルハーモニア管弦楽団2023アルゼンチン コロン劇場公演 1周年記念メモリアルBOOK』を制作いたしました。

改めまして、本ツアーおよび本誌の制作にご支援・ご協力を賜りましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。



▶施設及びキャンパスの整備充実への支援

安心・安全なキャンパス環境整備を実施

本寄附金は、東京藝術大学の施設およびキャンパス環境の整備・充実を目的として、設備整備全般に活用させていただいております。

2024年度は、校舎階段室のガラスに飛散防止フィルムを貼付し、地震時の安全性を向上させました。また、老朽化した樹木の剪定・伐採を行い、事故防止と環境の美化を図りました。

今後も、安心・安全なキャンパスづくりのため、皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

寄附者からのメッセージ

2024年度中にご寄附くださった皆様からお寄せいただいた温かいメッセージの一部をご紹介します。学生や教職員にとって大きな励みとなるお言葉を胸に、今後も芸術の未来を支える教育・研究・創造活動に取り組んでまいります。

- 多くの大学で、すぐに役に立たないもの、成果がすぐに出ないもの、数値で測れないものが排除されつつあります。藝大生には、そうした流れの最後の砦になってくれたらと切に願います。なんだかよくわからないことに夢中になってほしいです。そのための資金を出すのが大人の役割です。
- 奏楽堂は、演奏家にとって貴重な、特に芸大生にとっては特別な場所と思います。これからも思い出に残る演奏がたくさん生まれていくことを願っています。
- 美しいものはどんな時も美しく、芸術はどんな時も人に必要不可欠なのだと思います。美しい芸術がこの先もずっとここから生まれ続けることを祈ります。
- 東京藝術大学の奏楽堂が未来へと受け継がれることを願い、寄付をさせていただきました。この舞台が、学生の皆さんの挑戦や表現の場として輝き続け、芸術の力をより多くの人に届ける場となることを心より祈っています。
- 毎年、卒展や藝祭で楽しませていただいています。素晴らしい技巧や発想力だけでなく、作品から学生の皆さんの強い想いを目の当たりにすることで、楽しさや苦しさなどの感情を奮い起こされ、心が豊かになって帰路につきます。少しですが、今後の皆様のご活躍の支えになればと思っています。
- 第42回チェンバーオーケストラ定期演奏会を初めて鑑賞してからの大ファンです。人生観が変わりました。YouTubeでアップされている定期演奏会を何度も繰り返し奏楽堂でのライブを思い返しています。演奏者の幼少期から現在までの努力を考えると涙がでます。ありがとう感謝です。
- 藝大は学生時代から授業に携わった今日まで半世紀にわたってお世話になった存在です。これからも永遠に芸術の発信拠点として発展することを願っています。
- 上質な音楽は心踊らせ、別世界に誘い、多幸福感に満たしてくれます。私は皮膚科医師ですが、音楽を生音で聴く事を、『聴く美容液』と呼んでおります。医学的にも論拠のある癒しの効果で、皆の人生を豊かにする尊いお仕事を貰って頂きたいと願い、微力ながら応援させていただきます。
- コロナ禍での入学から4年、細々とした不自由はありつつも、先生方や先輩後輩の皆様に恵まれ、充実した学生生活を送らせていただきました。かつてオンラインで拝見した入学式、感動致しました。これから入学される皆様が同じ想いを共有出来ますよう、僅かではございますが、寄附させていただきます。
- 高3で、初めて訪れた大学の施設は新奏楽堂。打楽器アンサンブル演奏会の先輩方の企画に「こんな壮大な事を入学出来たらしなければならないのか…」と驚愕してから早20年以上。入学式での雅楽の演奏から学生生活は始まり、舞台、オケピ、客席とどれだけお世話になった事でしょう！少しでも恩返しを。

財務報告

▶2024年度 収支報告

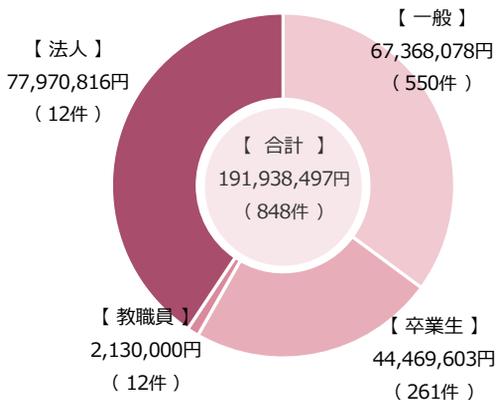
収入の部	非目的指定寄附金（未来寄附金）	25,937,082 円
	目的指定寄附金	166,001,415 円
	その他収入（運用益）	3,417,430 円
収入の部 計		195,355,927 円
支出の部	目的指定活動資金	104,524,297 円
	渉外活動経費	986,272 円
支出の部 計		105,510,569 円
差引収支額		89,845,358 円
前期繰越基金残高		701,509,739 円
期末基金残高		791,355,097 円

▶東京藝術大学基金期末残高の状況

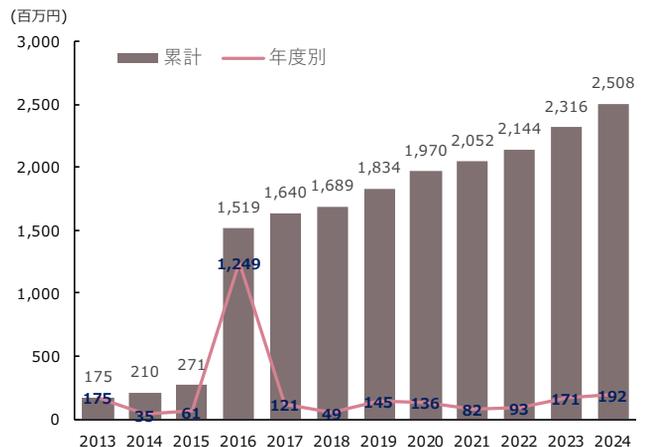
非目的指定寄附金（未来寄附金）	285,619,675 円
目的指定寄附金	445,072,103 円
運用益	60,663,319 円
計	791,355,097 円

▶東京藝術大学基金への寄附受入実績

2024年度



累計総額と年度別総額の推移



▶東京藝術大学基金実績報告

■2024年度寄附受入

2024年度は総額 **191,938,497** 円のご寄附をいただきました。

非目的指定寄附金	●未来寄附金	396件	25,937,082 円
目的指定寄附金	●平成藝術賞（奨学金）	1件	2,400,000 円
	●奏楽堂大規模改修プロジェクト	237件	42,946,500 円
	●アートDX基金	8件	7,600 円
	●SDGs推進基金	15件	28,559,850 円
	●若手芸術家支援基金	15件	12,574,000 円
	●卒業・修了作品展支援プロジェクト	17件	147,250 円
	●藝大の森プロジェクト	12件	167,411 円
	●正門再生プロジェクト	6件	59,850 円
	●施設整備プロジェクト基金	3件	95,200 円
	●修学支援事業基金	54件	484,000 円
	●海外派遣奨学金給付制度への支援	2件	14,000 円
	●日比野克彦学長学術研究基金	2件	9,525,467 円
	●日比野克彦を保存するプロジェクト	2件	4,750,000 円
	●藝大TURNプロジェクト	2件	4,750,000 円
	●包括連携プロジェクト	1件	20,000,000 円
	●電気代高騰に対する支援	1件	10,000 円
	●美術学部・大学院美術研究科への支援	34件	24,016,241 円
	●音楽学部・大学院音楽研究科への支援	33件	3,547,850 円
	●藝心寮に関する支援	2件	4,711,196 円
	●愛住館の展覧会・運営等への支援	3件	5,985,000 円
●渉外活動への支援	2件	1,250,000 円	
合計		848件	191,938,497 円

■2024年度事業支出

2024年度は総額 **105,510,569** 円の事業支出を行いました。

●宗次徳二奨学基金	（特待奨学生奨学金、海外留学支援奨学金 等）	23,930,000 円
●SDGs推進基金	（藝大×みずほFG「アートとジェンダー研究会」 等）	16,832,621 円
●電気代高騰に対する支援	（水道光熱費）	9,326,045 円
●若手芸術家支援基金	（東京藝大アートフェス2024 等）	6,258,645 円
●国際交流拠点整備事業	（「変化し続けるパブリックアート」大型モニター設置 等）	5,324,250 円
●澤和樹学術研究基金	（第70 回オペラ定期公演「フィガロの結婚」への助成 等）	4,055,654 円
●平成藝術賞	（平成藝術賞奨学金）	2,400,000 円
●その他		37,383,354 円
合計		105,510,569 円

寄附特典

▶ 称号の贈呈

一定額以上のご寄附をいただいた方に、以下の称号を贈呈しております（寄附額はいずれも累計）。

寄附の累計金額	称号の種類
1億円以上	特別栄誉会員
1,000万円以上	栄誉会員
500万円以上	特別貢献会員
100万円以上	貢献会員
30万円以上	賛助会員

▶ 銘板の設置

寄附金の累計額が100万円以上になった方のご芳名を銘板に刻銘し、永く顕彰いたします。

（ご承諾いただいた方のみ）

▶ 税法上の優遇措置

東京藝術大学へのご寄附には税法上の優遇措置が適用されます。別途お送りする領収書を控除証明書として確定申告に添付し、所轄税務署へご提出ください。

▶ 寄附者のご紹介

感謝の気持ちを込めて、ご寄附いただいた方のご芳名を大学広報誌「藝える」でご紹介いたします。

（ご承諾いただいた方のみ）

▶ 本学主催イベントへのご招待

大学美術館の展覧会や奏楽堂での演奏会等に賛助会員以上の方を可能な限りご招待いたします。

ご寄附の方法

▶ 書面によるお申し込み

書面によるお申し込みをご希望の方は、東京藝術大学基金室までご連絡ください。後日、関係書類を郵送いたします。指定の「払込取扱票」又は「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、各金融機関窓口よりお振込みください。

【お振り込み先】

● 郵便振替

口座記号番号：00100-7-729410

加入者名：国立大学法人 東京芸術大学

● 銀行振込

三井住友銀行 東京公務部 普通預金 151873

口座名義：国立大学法人 東京芸術大学 寄付金収納口

みずほ銀行 東京中央支店 普通預金 1891468

口座名義：国立大学法人 東京芸術大学

▶ WEBサイトからのお申し込み

東京藝術大学基金WEBサイトから下記の決済方法でお申込みいただけます。

藝大基金

で検索

<https://www.fund.geidai.ac.jp/>

【決済方法】

- クレジットカード決済
- 銀行振込

寄附申込みフォームは
こちらの二次元コードから



東京藝術大学基金室

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

Tel：050-5525-2464

E-mail：geidaifund@ml.geidai.ac.jp